

ばんけい

教育ほんといっしょ
かわら版こ みち
教育の小径 No.121
2018 November
11月号(一財)総合初等教育研究所参与
前 国士舘大学教授

北 俊夫先生



今月のことば

怪我の功名

何げなく行ったことや
うまくいかなかったこと、
過失だと思ったことが
偶然により結果をもたら
すことを言います。「過ち
の功名」とも言います。

社会参画は「授業参画」から

- 学校や学級は「小さな社会」です。一人一人が学級での生活や学習をよりよくするために主体的に関わることが、いまからできる社会参画です。
- 子ども一人一人が授業に参画する場や機会をつくることによって、将来社会に参画するために必要な資質・能力の基礎を養うことができます。

今月の
記念日 古典の日
(11月1日)

日本古来の文学や音楽、美術、演劇、
伝統芸能、演芸など古典について関心
と理解を深めることを目的に、平成
24年(2012年)に設けられました。

社会参画と学校・学級

学校教育の役割は、子ども一人一人の
人格の完成を目指すとともに、国家・
社会の形成者として成長させることに
あります。

社会に参画するとは、社会へのより
能動的な関わりを言い表しているもの
です。社会に協力する、参加するといっ
た、すでに出来上がっている社会に関
わることから、さらに一步踏み込んで、
よりよい社会の形成を企画する段階か
ら関わることです。参画には社会によ
り主体的に関わるという意味合いが含
まれています。選挙権を行使する参政
権はその一例です。

小学生にとって、よりよい社会の形
成に実際に参画することはほとんど考
えられません。ゴミを出すルールを守
る、地域の祭りに参加する、伝統の囃
子を引き継ぐなど、いずれも対象への
関わりは、協力や参加、貢献です。成
長や発達の過程にある子どもの実態を
考慮すれば当然のことです。

子どもたちは現在、おとなが考えつ
くり上げている社会のなかで生きてい
るからです。しかし、成人になった暁
には、そうした社会づくりに参画し、
主体的、創造的に関わっていくことが
求められます。社会は、年齢、性別、

国籍、職業など、さまざまな面におい
て多様な人たちで構成されています。
そうした社会をよりよくするためには、
一人一人が社会の課題を見だし、そ
の課題解決のために社会に主体的に参
画し、さまざまな人たちと共に生きて
いくことが期待されます。

このように、一般的には「社会」を
将来の生きる場、おとながつくる場と
して捉えがちです。しかし、子どもた
ちにとって、もうひとつの身近な社会
があります。それは、子どもたちが毎
日生活している学校や学級という集団
です。身近にある「小さな社会」にお
いて参画意識を育てることが、将来必
要となる社会参画できる資質・能力を
育てることにつながります。

「授業参画」とは何か

教師が知識や技能を一方的に伝達す
る授業から、子どもが知識や技能を主
体的に獲得し、その過程で問題解決に
必要とされる思考力、判断力、表現力
などの能力や主体的に学習に取り組む
態度を養う授業への転換が求められて
います。そのためには「主体的・対話
的で深い学び」のある授業をつくるこ
とが一層重要になります。

「授業参画」とはあまり耳にしない
言葉ですが、文字どおりよりよい授業

づくりに参画することを言います。教
師は予め作成した計画にもとづいて指
導しています。ただ、教師の指導が強
くなりすぎると、子どもたちの姿勢は
受動的になりがちです。

教師の指導のもと、子どもたちが自
分たちの学習活動を計画することによ
って、授業への参画意識を高めること
ができます。例えば、問題解決のための
学習計画を立てる、実験や観察の方法
を考える、まとめ方を自分たちで決め
る、作業や討論・話し合い活動などを
グループで行うなど学習の仕方を自分
たちで計画し実施することです。

教師が丁寧に「次に〇〇をしましょ
う」と問いかけ、学習活動を指示する
ことも大切です。しかし、自分たちの
学習活動を子どもたちに考えさせ、見
通しと責任をもたせながら授業を展開
させることも重要です。授業に対する
主体性とともに、新たなことを生み出
す創造性や事柄を進める際の計画性、
友だちとの協調性や調整力など、社会
人として成長するために必要な資質・
能力が養われるからです。

学級という「小さな社会」において
「授業参画」の場や機会をつくること
は、さまざまな事象や事柄に対して参
画意識を養い、将来必要とされるより
よい社会の形成に参画できる資質・能
力の基礎を養うことにつながります。

給食が食べきれない

決められた時間までに給食を食べ終わらない子どもがいます。後片付けができなくなったり、遅くなったりします。どのように指導したらよいのでしょうか。

給食は決められた時間内で食べ終わるよう指導することが基本です。かつて、最後まで食べさせようと、時間が過ぎてても一人で食べている状況が見られました。最近では、無理強いして食べさせることは無くなってきました。「食べることは楽しいこと」を基本に給食指導が行われています。

私たちおとなであっても、食べるスピードはもとより、食べる量や好みは人によって違います。体調もその日によって変わることがあります。こうしたことは、子どもにおいても例外ではありません。むしろより顕著に表れることが多いものです。

学級には、食が細く食べるのに時間を要する子ども、嫌いなものが喉を通らない子ども、量が多くて食べ終わることができない子どもがいます。こうした子どもたちに無理やり食べさせると、途中で戻してしまったり、給食嫌いになったりします。

食が細く時間内に食べ終わらない子どもには、給食を用意するとき、了解を得ながら予め食べられる量を加減します。嫌いな食べ物は何日もかけて、少しずつチャレンジさせます。保護者の協力を得ることも欠かせません。

給食指導においても、学習と同様に一人一人の子どもの実態や課題を踏まえて、個に応じたきめの細かな指導を行うことが基本です。

教育の動向

教育情報化推進事業報告書

新学習指導要領は、教科等横断的な視点に立った資質・能力を身につけるために、言語能力や問題発見・解決能力とともに、情報モラルを含めた情報活用能力を育成することを求めています。また、知識や技能を習得させ、思考力、判断力、表現力などの能力や学びに向かう力を身につけるためには、ICTを活用することが効果的だと言われています。

文部科学省から情報教育に関する報告書が公表されています。「次世代の教育情報化推進事業」の成果をとりまとめたもので、「情報活用能力を育成

するためのカリキュラム・マネジメントの在り方と授業デザイン」と「主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT活用の在り方と質の評価」の2分冊から構成されています。

前者の報告書は「児童生徒に育む情報活用能力を体系的に明確にし、教科等横断的な情報活用能力に係るカリキュラム・マネジメントの在り方」について研究実践を進めてきた情報教育推進校（IE-School）での取り組みを整理したものです。

後者は「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善や個に応じた指導など、各教科等におけるICTを活用した指導方法」について実践的に研究開発した内容がまとめられています。



「思考力・判断力・表現力」の

指導と評価

その1

法令等での位置づけ

学校教育の場で「思考力、判断力、表現力」というフレーズが言われるようになったのは、平成4年度ごろのことです。四半世紀も前です。当時「新しい学力観に立つ教育」が提唱され、「基礎的な知識や技能を習得させることはもとより、学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質・能力を重視する」ことが強調されました。

ところが、このことの法的な根拠がどこにも示されていませんでした。そのため「学力とは何か」の議論がさまざまに行われてきました。それまで学力観と言えば、いろんなことを知っていること、上手にできることといった「知識や技能」のことをイメージしがちでした。そのため、わが国の教師は「知識や技能」の教え方については優

れた技術を磨いてきました。

これに終止符を打ったのが平成19年に一部改正された学校教育法です。その第30条の2項に「（前略）生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」と規定されました。同様な記述は、学習指導要領の総則にもみられます。

ここには、学力を構成する基本要素が示され、その一つに「思考力、判断力、表現力」が規定されました。このことにより今回の学習指導要領では、各教科において「思考力、判断力、表現力」の育成がこれまで以上に重視されています。

INFORMATION

新刊

授業力向上の処方箋

「ものの見方・考え方」とは何か

著者 北 俊夫

定価 本体1,200円+税

発行 株式会社 文溪堂

A5判
96ページ

教師も子どもも身につけたい、身につけさせたい
「見方・考え方」を35の具体例でわかりやすく解説!



編集後記

今月号から新連載「思考力・判断力・表現力の指導と評価」が始まりました。思考力・判断力・表現力は新学習指導要領で重要なポイントであり、北先生の教育現場に即した解説が読めるのは、本紙だけです。1年間ご期待ください。(K記)

企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2018年11月1日